様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　２ 日現在

機関番号：３２６２１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０２３４６

研究課題名（和文）現代プラグマティズムの市民学習と民主主義―教育の公共性の比較研究

研究課題名（英文）Citizenship Learning and Democracy in Contemporary Pragmatism: A Comparative Study of the Publicness of Education

研究代表者
上野　正道（UENO, Masamichi）

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：５０４２１２７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、プラグマティズムのシティズンシップ教育と民主主義のテーマについて学校と学びの公共性形成の角度から明らかにした。そして、民主的な市民の形成を「生き方」の学びの視点から探究したデューイのプラグマティズムと進歩主義の教育思想が、ヨーロッパや東アジアの思想と実践の中で発展的に受容され展開してきたことを比較し考察した。なかでも、オランダ出身の教育哲学者であるビースタの民主主義教育の議論や、東アジアにおける民主的な学校と学びの思想を取り上げて論じた。それによって、今日、国際規模で脚光を浴びる主権者教育、政治教育、シティズンシップ教育の哲学的・実践的課題について新たな知見を提供することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義や社会的意義は、以下の三点にある。（１）シティズンシップ教育と民主主義の理論的・概念的なフレームワークを構築し、教育と公共性のテーマに関する先端的かつ高度な学術研究へと卓越させた点、（２）デューイとプラグマティズムの思想と実践を現代を代表する教育哲学者であるビースタの議論や東アジアの学校と学びの理論に接続して考察した点、（３）市民学習と民主主義の課題を今日の主権者教育や政治教育の趨勢の中に位置付けて、その哲学的・実践的意義を解明した点である。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the themes of citizenship education and democracy in pragmatism from the perspective of the publicness of schools and learning. I studied how John Dewey's pragmatism, which explored the formation of democratic citizenship in terms of learning "how to live," and the educational ideas of progressive education have been developed and accepted in the thought and practice of Europe and East Asia. I also discussed theory of democratic education by Gert Biesta, a philosopher of education from the Netherlands, and the ideas of democratic school reform and learning in East Asia. This research provided new insights into the philosophical and practical issues of sovereignty education, political education, and citizenship education, which are currently in the spotlight on a global dimension.

研究分野：学校教育学、教育哲学

キーワード：民主主義教育　シティズンシップ教育　ジョン・デューイ　ガート・ビースタ　東アジアの学びと学校改革　プラグマティズム　進歩主義教育　コミュニティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
市民教育や民主主義教育については、近年、国内外で、主権者教育、政治教育、シティズンシップ教育の理論的、実践的な研究が進められている。その中では、よき市民に必要とされる有用な知識・スキル・コンピテンスの強調へと向かう傾向が見られる。本研究では、よき民主主義のためのよき市民の資質・能力ではなく、よき市民となるためにはよき民主主義の経験が重要だとするプラグマティズムの視点を採用する。

２．研究の目的
本研究の目的は、現代プラグマティズムが提示する市民学習と民主主義の思想を教育の公共性形成の角度から考察することにある。具体的には、市民教育を「生き方」の学習の視点から構想したジョン・デューイのプラグマティズムの思想が、ヨーロッパ諸国や東アジア諸国の政治的、社会的な文脈の中で発展的に受容され展開してきたことを比較し考察する。それによって、今日、国際的に注目されている主権者教育、政治教育、シティズンシップ教育の哲学的・実践的課題について明らかにすることとする。

３．研究の方法
本研究の研究方法として、デューイからガート・ビースタへと展開する民主的教育の理論的発展を考察し、それが現代のグローバル世界においてどのような意義と可能性をもつかを明らかにすることがあげられる。具体的には、市民教育を「生き方」の学習の視点から構想したデューイのプラグマティズムの思想が、ヨーロッパ諸国や東アジア諸国の政治的、社会的な文脈の中で発展的に受容され展開してきたことを比較し考察した。

４．研究成果
　本研究の成果として、以下の三点がある。
　第一に、シティズンシップ教育と民主主義の理論的・概念的な研究に着手し、その意義を明らかにしたことである。特に、今日のシティズンシップの後退とされる事態を民主主義の危機の原因と考えるのではなく、危機がもたらした結果と理解する見地から、民主主義のためのシティズンシップ教育ではなく、民主主義の経験からシティズンシップの形成へと向かう議論を明らかにした。本研究では、アメリカのデューイの民主主義と教育の思想に着目した。彼がコモン・マン、すなわちごく普通の一般の人が生きることと学ぶことを民主的教育の根幹に位置づけて、教育と社会の改革に乗り出したことを考察した。デューイの教育論は、従来、学校と社会の結びつきを強化する主張として読まれてきたが、本研究では、デューイが学校を「小さなコミュニティ」、「発達の芽を宿す社会」と理解していたことに注目して、学校を家庭でも社会そのものでもない、第三の場所（サードプレイス）と見なしていたという解釈を提示した。また、社会の分断や不寛容が拡大する 20 世紀前半の時代において、デューイが教育を通してどのように民主的な社会を形成しようとしたかを明らかにした。
　第二に、デューイの教育思想からビースタの教育思想への展開を考察し、「生き方としての民主主義」から「政治的主体化」を中心とする民主的シティズンシップの教育論を考察したことである。具体的には、子どもか教科か、生活か科学か、経験か知識かといった教育の二項対立を超えて、世界の中でよりよく生き、よりよく学ぶことを基礎に据えた民主的シティズンシップの教育を考察した。ビースタは、今日の教育の傾向を「教育の『学習化』」として捉えて批判的に分析する。そして、教育の機能を「資格化」、「社会化」、「主体化」の３つに分類する。さらに、ビースタは、「主体性」や「世界中心の教育」としての民主主義の理解を提供してきた。そして、シティズンシップ教育を既存の社会へと適応する市民的な知識、スキル、コンピテンスの獲得としてよりも、そこから識別しえない他者の「現れ」を内包した民主的な主体化のプロセスとして理解する観点を提示する。このような民主的シティズンシップの教育の哲学は、今日、持続可能な世界において目指される「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた教育にとっても重要な手がかりを与えてくれるものである。
　第三に、市民学習と民主主義の課題を、今日の日本を含む東アジアの政治教育や主権者教育の文脈から捉え直し、その思想的・実践的意義を明らかにしたことである。なかでも、東アジアにおける学びと学校改革の観点からデューイやビースタの民主的教育の意義と可能性を考察した。グローバル化や知識基盤社会、多文化共生社会を方向づける教育は、東アジアにおいて大きな改革の潮流を形成し、国際標準学力やコンピテンスを重視した学習やカリキュラムの導入を促してきた。なかでも、知識基盤社会の到来に必要とされる知識・スキル・コンピテンスは、学校の民主化や自由化とセットとしてそれらを促進する側面をもつ一方で、教育の市場化や自由化をもたらす新自由主義に接近する側面をももつことを考察した。東アジアでは、欧米の learning、education、Bildung の思想を積極的に導入してきた歴史的経緯がある一方で、それらの教育の理解と重なり合うと同時に、そうした概念では必ずしも捉えることができない学びの文化や伝統が保持されてきたことを明らかにした。特に東アジアの教育は、新自由主義やナショナリズム

の教育と親和性をもっている。これに対し、東アジアの教育を民主的シティズンシップの教育や市民的権利の思想に根を張る学校改革へと接続することの意義を指摘した。それによって、東アジアの教育の固有性と多様性を捉え直すと同時に、学校と学びの改革をアジアの民主主義やシティズンシップにつなげて改革を実現していくことの必要性を明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 上野正道	４．巻 211
２．論文標題 シティズンシップと公共性のための民主的教育――生徒が政治の主体になるということ――	５．発行年 2021年
３．雑誌名 高校生活指導	６．最初と最後の頁 98～105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　3件／うち国際学会　6件）

１．発表者名 Masamichi Ueno
２．発表標題 Curriculum Reform and Lesson Study for Sustainable Learning Improvement in Japan
３．学会等名 Lesson Study Community（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Masamichi Ueno
２．発表標題 Globalisation and Innovative Education in Japan: Unique Insights and Perspectives
３．学会等名 University of the Philippines（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Masamichi Ueno
２．発表標題 Revisiting Japanese and East Asian Education in the Global Era: Unique Insights and Perspectives
３．学会等名 Asian Link of Philosophy of Education（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Masamichi Ueno
２．発表標題 Innovative SchoolReform and Art Education in Japan in the Era of Industry 4.0
３．学会等名 The Eighth International Conference on Language and Arts（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kayo Fujii, Hektor Yan, Chia-lLng Wang, Yasunori Kashiwagi, Masamichi Ueno
２．発表標題 Rethinking Learning in East Asia: Manabi and Xue
３．学会等名 The 10th Conference of the World Education Research Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 上野正道
２．発表標題 デューイにおける教育の自由と公共性
３．学会等名 日本デューイ学会大会第63回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kayo Fujii, Masamichi Ueno, Yasunori Kashiwagi
２．発表標題 An Analysis of the Educational Practice of Manabi
３．学会等名 Philosophy of Education Society of Australasia（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計9件

1．著者名 上野正道	4．発行年 2022年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 270
3．書名 ジョン・デューイーー民主主義と教育の哲学	

1．著者名 ガート・ビースタ著　上野正道監訳	4．発行年 2021年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 256
3．書名 教育にこだわるということ――学校と社会をつなぎ直す	

1．著者名 Masamichi Ueno, Yasunori Kashiwagi, Kayo Fujii, Tomoya Saito, Taku Murayama	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 148
3．書名 Manabi and Japanese Schooling: Beyond Learning in the Era of Globalisation	

1．著者名 Masamichi Ueno, Matthew Atencio, Mary Anne Heng, Tomoko Higurashi, Yulun Huang, Rachel Ong, Jiwon Shin, Naomi Takasawa, Atsushi Tsukui, Jian Zhang	4．発行年 2021年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 179
3．書名 School Reform and Democracy in East Asia	

１．著者名 日本デューイ学会編　加賀裕郎代表、生澤繁樹、上野正道、佐藤隆之編集委員	４．発行年 2020年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 330
３．書名 民主主義と教育の再創造――デューイ研究の未来へ	

１．著者名 Masamichi Ueno, Yasunori Kashiwagi, Kayo Fuji, Tomoya Saito, Taku Murayama, Foreword by Gert Biesta	４．発行年 2020年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 162
３．書名 Manabi and Japanese Schooling: Beyond Learning in the Era of Globalisation	

１．著者名 ジョン・デューイ著　上野正道訳者代表　佐藤学解題	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 320
３．書名 デューイ著作集７教育２　明日の学校、ほか	

１．著者名 ガート・ビースタ著　上野正道監訳	４．発行年 2018年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 208
３．書名 教えることの再発見	

１．著者名 ジョン・デューイ著　上野正道訳者代表	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 420
３．書名 デューイ著作集6　教育1　学校と社会、ほか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関